

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年8月26日

[テーマ] 暑い日にはかき氷—群馬の夏を楽しむ—

先週17日、関東地方は台風一過で今年一番の暑さ、館林では39・6度を記録した。こうしたニュースが流れると、県外の知人たちから体調を崩していませんかと尋ねられる。群馬が灼熱地獄であるかのように勘違いされてはならないと、日中の気温は高いですけどヒートアイランド現象が深刻な東京ほど息苦しくはありませんよとか、近くの赤城山や榛名山に登れば自然の涼しい風に当たることもできますよとか、聞かれてもいないことを説明したりしている。

私自身は8月生まれということもあり、暑い夏は大好き。10度を超える室内外の温度差も熱いお湯と冷たい水を交互に浴びる入浴法のように楽しむことができ、夏は暑ければ暑いほどうれしい。そのように暑い夏を楽しむのに当たって欠かしたくないのがスイカと冷たいお菓子、かき氷である。

かき氷を食べると頭がキーンとするという方もいるかも知れない。この頭痛は「脳」が冷たい刺激を痛みとして感じてしまうことが原因。不純物を含まない氷を細かく削った、ふわっふわのかき氷であれば、「脳」が反応する前に口の中であつという間に溶けてしまうので、頭痛の心配はないらしい。

「脳」と言えば、かき氷のシロップを製造している企業が「イチゴ・レモン・メロンシロップの味付けは全て同じで違いは着色料と香料」と明らかにした。見た目と香りによって「脳」が錯覚を起こすため、違う味に感じるのだという。かき氷ファンとしては衝撃である。

ただ、最近のかき氷はちょっとぜいたくになっていて、ふわっふわの天然氷に、果実感のあるシロップとともに、本物のフルーツもたっぷりと載っていたりする。そうした今風のかき氷を求めて、炎天下であっても、いや、であるがゆえに、近くのかき氷屋さんの前には長い行列が出来ている。

聞くところによると、かき氷の売り上げは気温と連動しており、気温が32度あたりでかき氷の売り上げがアイスクリームの売り上げを追い越すというデータもあるとか。温暖化が進むほどかき氷の人気は高まる。ここ数年かき氷がブームとなっているのは、たまたまではない。朝晩は涼しくなってきたけれども、まだまだ暑い日は続く。今年はあと何回かき氷を食べに行けるかな。

日本銀行前橋支店長
神山 一成